

会 議 録

会議の名称		第9回（仮称）研究学園小学校、研究学園中学校 開校準備委員会		
開催日時		令和4年5月31日（木） 開会 18：30 閉会 20：30		
開催場所		つくば市役所 2階 201 会議室		
事務局（担当課）		教育局 学務課		
出席者	委員	稲川綾子、菅典子、橋本恭子、小泉悠、鈴木夕紀子 伊藤町香、相澤健太郎、野尻敏弘、富岡暁子、槇幸子 山崎順一、横田瑞香、石黒正美、中原卓治、松延亮一		
	事務局	教育施設課課長鈴木聡、学び推進課指導主事横山賢裕 学務課課長下田裕久、学務課課長補佐川又文江 学務課係長中山美希、学務課主任篠原周平 学務課主事霜鳥壮彦		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 制服・体操服について (2) 校歌について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 制服・体操服について (2) 校歌について 3 その他 4 閉 会			

＜審議内容＞

1 開会

2 議事

事務局：ただ今から第9回（仮称）研究学園小学校、中学校開校準備委員会を開催いたします。議事に入ります前に事務局からお願いとなりますが、本日の委員会は AI により議事の文字起こしを自動で行うシステムを使用しております。このため、大変お手数ですが、御発言の際は必ずマイクを御使用くださいますようお願いいたします。マイク下のスイッチを押していただき、マイク中央部のランプが青く点灯しましたら使用できますので、よろしくお願いいたしますそれでは、これから議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長：皆さんこんばんは。今日もよろしくお願いいたします。今日は傍聴人の方はなしでいいですかね。

事務局：はい。本日傍聴人はなしです。

委員長：では、それでは議事に従って運営の方、させていただきたいと思いますので、今日もよろしくお願いいたします。まず議事の1点目がですね、制服・体操服ということで、これからそれぞれについてコンペをして、業者を選定して作っていくというようなことを、進んでいくわけでございますけれども、まず、コンペについて資料の方をですね、準備いただいておりますので、それを事務局の方からご説明の方をお願いいたします。

事務局：委員長、ありがとうございます。事務局です。右上に資料1と書かれた資料の方をお手元にご用意をお願いいたします。コンペの概要ということで、まとめさせていただいております。体操服・制服をそれぞれ別の日程で実施をさせていただく予定です。体操服につきましては、来月21日火曜日の18時15分から20時30分頃を予定しております。また、制服につきましては、その翌週の28日火曜日の18時15分から20時30分とい

うところを予定させていただいております。開催場所につきましては、こちらの市役所本庁舎の 2 階の会議室の方を場所として確保させていただいております。参加するメーカーにつきましては、体操服につきましては 3 社、また制服につきましても 3 社のメーカーが参加する予定でございます。また当日のタイムスケジュールにつきましては、体操服・制服ともに同様となっております、通常の委員会よりも少し早いんですけれども、18 時 15 分ごろにお集まりいただきまして、コンペ前の事前説明と打ち合わせの方を準備委員のみでさせていただきたいと思います。18 時 25 分から A 社のプレゼン準備ということで、入らせていただきます。18 時 30 分から A 社プレゼンという形になります。それ以降はですね、メーカー入れ替えまして、B 社プレゼン、またメーカーを入れ替えまして、C 社プレゼンというような形で進めさせていただきます。C 社からのプレゼンが終わりましたら退出後、委員の投票結果の方を集計いたしまして、選定メーカー 1 社の方を決めて、発表という運びにさせていただきたいと思います。その後ですね、選定したメーカーへ作成いただくサンプルへの要望等をお伝えいただく時間とさせていただきたいと思います。備考のところに移りますけれども、各社プレゼン時間は、20 分を予定しております。説明の方が 15 分、質疑応答 5 分、合わせて 20 分という形とさせていただきます。各社のプレゼン資料につきましては、コンペの前に、各委員の方へ送付をさせていただきたいと思います。またプレゼン資料につきましては、事前に質問事項等取りまとめいただきますようお願いをいたします。また選定メーカーにつきましては、新設校用のサンプルをですね、このコンペの次の委員会までに、3 点ほど製作いただきます。コンペ後に製作いただくサンプルへの要望等をお伝えする時間を設定しておりますので、こちらの方も要望等を事前に取りまとめいただけますと幸いです。続いて今後のスケジュールというところになりますけれども、コンペを経ますと、選定された

メーカーさんの方に、サンプルを3点ほど作ってきていただきます。そちらを踏まえて、また修正を加えさせていただいて、8月頃に修正したサンプルを提示いただきます。その後ですね、学校と保護者や児童生徒を対象としたアンケート等を実施させていただいて、その結果を踏まえまして、最終修正という形をかけさせていただいて、9月下旬頃に制服・体操服ともに決定というスケジュールの方、組ませていただいております。また資料2の方でご用意している規則の部分につきましては、この制服・体操服がある程度決まった段階でですね、具体的な協議の方を進めていただくとスムーズに進むのかなというふうに事務局としては考えております。資料1、資料2につきまして説明は以上となります。

委員長：はい。説明ありがとうございます。議題的には小さく分けると、コンペと制服の規則の二つが議題になるのかなと思っているんですけども、両方を一気に議論するとちょっとややこしくなってしまうので、まずコンペにつきまして、スケジュールとかですね、タイムスケジュールですとか、後は実際に1社を選定するわけですけども、この辺について、決めていくような形を今回させていただければと思いますが、とりあえず事務局からの説明のあった資料1に関しまして質問とか、気になる点があればですね、ご発言をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。何かどなたかキックオフ的にでも発言いただければと思いますが、どうでしょうか。特になければ、最初に私がキックオフさせてもらいますと、質問事項を事前に取りまとめというふうに記載ありますけども、これは事前に聞きたいこととかをリストアップしておくのは全然構わないんですが、当日、直接その場で発言していいのか、事前に送っておくのか、その辺どのようにお考えなのか教えていただけないでしょうか。

事務局：はい、事務局です。事前にまとめていただいたものを事前にメーカーさんの方にお伝えさせていただいて、最初にまず回答いただきたいと思います。

ます。プレゼンを受けた後にまた個別で聞きたいことがございましたら、その場でご質問いただければと思いますので、メーカーから送られてくるプレゼンの資料等を基に、こういったことを聞きたいというものがあれば、事前におまとめいただいて、また実際にプレゼンを受けて、質問したいことが新しくできた場合は、その場でご質問いただければと思います。

委員長：はい、ありがとうございます。他皆様、いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員：事務局の方に教えていただきたいんですが、この制服という文言がここで使われてますが、これは標準服という言葉と置き換えても支障はないでしょうか。もしくは、つくば市の方では、制服、標準服の用語の使い分けとかはありますでしょうか。教えてください。

事務局：特段、市の方でそういった決まりはございません。体操服との区別をさせていただいているだけで、特段、制服でなければならないといった決まりはございません。

委員：わかりました。ありがとうございます。

委員長：他皆様、いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員：今回3社・3社っていうのは、重複する会社っていうのはあるのかどうかっていうのを教えてください。

事務局：はい。メーカー名は伏せさせていただくんですけども重複する会社はございます。

委員：結果的に重複しても問題はないっていう認識でいいですか。

事務局：はい。結果的にコンペを受けて、決めたところが重複しても、特段問題はございません。

委員長：他皆様、いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員：このプレゼンの時は、試作品は持ってこないってことは、あくまで資料だけでの、要はパワーポイントとかだけのプレゼンって形で、そのあとに

これを見ると、サンプルの提示っていうのがあるんで、ちょっとそこが気になったんですけど。

事務局：事務局です。一応プレゼンの資料を持ってきていただくのと同時に、現在メーカーさんの方で取り扱っている制服・体操服のサンプルの方お持ちいただきます。ただし新設校用のものということではなくて、現在、他の学校さんの方で取り扱っている商品の方を持ってきていただくような形になります。はい。

委員：そうすると、そのメーカーの方で取り扱っている、当日持ってくる商品と実際今度この小学校・中学校のために作成する素材が同じかどうかってのはまた違うってところですかね。

事務局：はい、おっしゃる通りです。

委員：承知しました。ありがとうございます。

委員長：はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。はい、お願いします。

委員：はい。A社、B社、C社きつとそれぞれ機能面においては、おそらく、同じぐらい素晴らしいものがあるんだろうなと思うんですね。そうすると何をもって評価したらいいのかなっていうところに、悩んでしまって、これまでの納品実績を見て、そして取り扱い商品を基にした自己PR、あと、そういうもので選んでしまって、選ぶといっても何となくここがいいなみたいなそのレベルになってしまうのが、良いのかなっていうところがありまして、もうちょっと何をもって評価するかっていうところを揃えていきたいなと感じています。

委員長：はい、意見ありがとうございます。その辺はもう少し議論した上で、最終的に結論を出していければなと思いますけども、その点も含めて皆様他、意見とかあれば発言いただければと思いますが、何かご意見ありますでしょうか。

委員：はい。先ほど、メーカー名は言えないということだったんですが、つくば市において実績のあるメーカーさんを選んでいるのかとか、その3社の特徴みたいなのを教えてもらえますかね。

事務局：制服で言いますと、いわゆる4大メーカーと言われるような、どのメーカーさんも、茨城県内で取扱の実績のあるメーカーさんが来るような形になります。こういった形で申し訳ないんですけども、お伝えさせていただきます。

委員長：はい、ありがとうございます。関連して、手を挙げてる会社の財務体質とかですね、そういった実績とかも事務局で調べて問題がないという前提で、制服の機能面とか、価格面とかで我々が評価するという認識でよろしかったですよ。

事務局：はい、おっしゃる通りです。

委員長：はい。制服の会社が、例えば倒産して作れなくなったとか、そういったところのリスクは事前に調べておいていただけるということで、皆様ご認識いただいて、当日のコンペを評価いただければと思っております。ちょっと話がずれたのかもしれませんが、その他実際にコンペする際の評価方法ですとか、スケジュールも1日でプレゼンを受けて、業者を選定して、伝えることを伝えないといけなくて、結構盛りだくさんで、頭フル回転して臨まないのかなというところもあるんですけども、その辺も含めて、この流れでいいのかどうかとかですね、ご意見いただければと思うんですが、皆様いかがでしょうか。

委員：プレゼンとか経験がないのでわからないんですけど、3社を順番に聞いて、この10分、20分で答えってでるのが一般的なんではないでしょうか。何か、みんなで考えてとかそういうのではなくて、もう大体資料とかを見て、3社の特徴とか、何か気になることをこの事前打ち合わせで話し合っ、この20分を聞いたら、もう大体答えが出て、この時間で収まるっていう感じ

なんでしょう。そのあたりを教えてください。

委員長：ご質問ありがとうございます。多分、学森の時の事例とかをご紹介いただくとうちがかりやすいかなと思うので、紹介していただいでよろしいですか。

事務局：はい。事務局です。学園の森につきましては、今回の研究学園とは異なつて1日、昼間から開催をして、制服、体操服、両方ともコンペを一度に実施をして、その当日のうちに、選定メーカーを1社それぞれ決めていただいで、その後こういふ形の流れて選定メーカーさんへ要望等を伝えいただくといううな形をとらせていただきました。また先日、香取台の方でも来年開校する学校あるんですけども、そちらの方では小学校なので体操服だけのコンペではあつたんですけども、そちらの方も基本的に同じうな流れて、メーカーさんに来ていただいで、プレゼンをしていただいで、その後1社選定していただいで、意見交換といううな形に進めさせていただいでおります。はい。

委員長：はい、ありがとうございます。もしよろしければ、学森の時の経験で、どんな感じだつたかとか、難しかったこととか、その辺をお話いただけると助かります。

委員：いろいろ資料を探つてみたんですが、確かに学森の時は約半日ですかね、スケジュールでは13時半から16時15分というスケジュールだつたんですが、確かスケジュールでは終わらなかつたうな覚えがあります。どういふところで差を見出すかについては、実際その持つてきてもらうサンプル品を触つたり、あとはもしサイズが合えば着てみたりとか、着心地とかその辺も、特に女性の委員の方は気にされて、いろいろやられていたのが印象的でした。後は、点数の採点の基準はこの時どういふ基準で採点したかは失念してしまつたんですが、結構僅差で、点数が多かつた方が選ばれたとかという状況もありました。そういう僅差なつた場合に、本当に点数

の多かった方を純粹に選んでいいかどうかも含めて、なかなか判断が難しい状況もあった覚えがあります。覚えてる範囲としては以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。香取台の体操服のコンペの評価のところとかで、もう少し補足いただければと思いますけど、よろしいですか。

事務局：香取台の方はですね、まず審査方法のところは保護者の委員の方が一から作っていただきまして、審査項目等の設定も保護者の委員さんの方で行っていただきました。項目ごとに、5段階評価というようなことを保護者の委員さん、考えられて、そちらの方当日実際に Google フォームですかね、そういった形で集計をして、すぐに集計結果が皆さんで見られるような形にして、香取台の方は4社、メーカーが参加しまして、そのうち2社がある程度拮抗したというか、ポイントというところが拮抗しまして、そういった結果が出た場合、どうするかっていうのはもう保護者の委員さんの方で事前に決めていたらしくてですね、そのままもう、その委員会の中で協議をして、実際どちらがいいかといったところを、その2社で絞って、協議をして、1社を選定したというような運びで進みました。はい。

委員長：はい。事例の説明ありがとうございます。少しずつイメージが湧いてきたかなと思うんですが、お願いします。

委員：はい。僅差になったときとかに評価できないというか、本当に甲乙つけがたい場合なんですけども、例えばみどりの学園の時は、多分2社で制服のコンペをしたと思うんです。なので2社を選ぶっていうこともできるんですか。2社が制服を2点ずつ出して、その中で生徒が自由に選んで、その選ばれた制服かつ、選ばれたその業者を最終的に生徒が最終的に決めるみたいな。これ多分ホームページを見てたら出てきたものだったので、そうなのかなっていう程度なんですけど。

事務局：過去に事例がないので、一概にこうとは言えないんですけども、やはり2社に増えるとなると、その分修正とか補正とか、それぞれにお願い

していくような形になるので、1社で進むよりも、時間がかかってしまう部分もあって、納期の部分に影響が出てくるのかなというふうに思います。すいません、こういった回答で申し訳ないです。また、2社を選ぶとなるともう一応コンペではもはやなくなってしまっていて、はい。そのどちらか出てきたメーカー両方とも選ぶという形になってしまうので、コンペというところからはちょっと逸脱といいますか、ちょっとそこから外れてしまうのかなと思います。また既にメーカーさんの方にお伝えしている関係もありまして、例えば6月28日に実施というところも難しくなります。はい。

委員長：はい、ありがとうございます。そのみどりのの事例がいまいちイメージ湧きにくい部分もあるんですけども、それは全然認識されてないってことですか。

事務局：みどりのに関しては2社のメーカーが来まして、どちらか1社に選定をした上で、同じような、このサンプル作成の過程の方に進んでいます。

委員長：基本的には同じような進め方ですかね。はい。他皆さんいかがでしょうか。はい、どうぞ。

委員：先ほどの香取台でしたっけ、評価項目を事前に保護者の方が出してきたという話だったんですけど、差し支えなければそれを教えてくださいということと、3社の方たちはお取引するにふさわしい会社っていう多分縛りかけてると思うんですけど、このコンペに出てくる方たちは、つくば市のお取引するにふさわしいっていうのはクリアしてるっていう前提で考えてよろしいということでしょうか。

事務局：はい、事務局です。まず1点目の項目の部分については今手元に資料がないんですけども、覚えてる範囲では、機能面ですとか、あと価格帯のところですか、そういったところが、評価軸としてありまして、また委員さんの方から事前に、環境への対応とか、そういったところをプレゼンの方には盛り込んで欲しいといったところもありましたので、そういった

環境への配慮といったところも評価するポイントを項目として挙げておりました。はい。また２点目につきましては、現在、市内の販売取扱店の方で取り扱っているメーカーさんの方が対象になってますので、そこら辺の信用は問題ないかなというふうに思います。はい。

委員長：はい、ありがとうございました。アンケートとかでも聞いてたのが機能面とか価格とかデザイン性なんで、評価項目を立てるのであれば、その辺がなりそうな気はしました。はい。その辺も含めて最終的にどれにするかは決めて、集計とか我々でやらないといけないことになると思うんですが、他も含めて評価指標をどうするかとか、５段階でやるとか、何か先ほどありましたけども、ご意見いただければと思います。はい、お願いします。

委員：タイムスケジュールと関わってくると思うんですけども、A、B、Cと３連続でプレゼンを聞いてから評価をするのか、A社を聞いてから、みんなで話し合うような時間をこの入れ替えの間に取ってるのかどうか。私はあまりこういう服とかの知識がないんで、できれば合間合間の時間を取ってもらった方がいいなと思ってます。じゃなかったら、何かこうプレゼンで上手くしゃべってる人の方がついつい印象に残ったり、A、B、Cと進んでいく中で、後に発表したCの方が印象に残ったりっていうような、そういう不平等が出ないかなってのがちょっと気になっています。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。こういうのやるといつも当たる壁ですよ。はい、お願いします。

委員：はい。学森の時の評価基準表が手元にあったんでご紹介させていただくと、５段階評価、非常に優秀から優秀、普通、やや劣る、劣るという５段階評価で、評価項目については、５項目。デザイン、デザイン性に優れ、生徒が健康で落ち着いて生活できるものであるか。機能性品質、着心地、耐久性、機能性に優れているか。価格、良質な素材等でできるだけ安価に

仕上げるか。製造の継続性、引き続き安定供給ができるか、実績、近隣校での採用実績があるか。この評価項目について5段階評価をしていました。以上、参考まで。

委員長：はい、ありがとうございます。他の皆様も今のお話とか聞いて、何か追加の質問とかあれば、お願いできますでしょうか。学森は評価の仕方をきっちり作っていて、大変参考になるのでぜひ展開していただけるとありがたいなと思ったところです。他、いかがでしょうか。特段なければ徐々に内容を固めていければなと思っておりますけども、タイムスケジュールは基本的にはこれに従って進めていくということで、確定させてもらいたいんですけども、先ほどもあった通り、1社ごとに話し合いをするのかといったところで、今のスケジュールだと、入れ替えが5分あってそこで話し合えるかどうかといったところが非常に難しいなというふうに思っておりますので、毎回毎回話し合うのは、正直厳しいのかなと思っていますので、例えば、事前に評価項目とか5段階の点数のシートを皆さんに配布してきて、1回聞いた直後の採点結果と、あと全部終わった後での採点結果の2段階構成にして、皆さんの意見を聞きながら最終的に変えるよ、変えないよ、とかってというようなやり方で、各個人の結果を決めていただいて、その平均を皆さんの総意にするのかとか、いろいろあると思うんですけども、その辺についてもう少し議論できればなと思っておりますけども、また何かお気づきの点とか、評価点をどういうふうに判断の点数にしたのか、その辺もしよろしければ、学森の時の事例とかですね、何かあれば教えていただければなと思っていますけども、いかがでしょうか。

委員：はい。新しい制服とあと体操服を作成する時だったんですが、その時は何社かに学校のカラーとか校風とか、校訓とかそういう情報を伝えといて、実は先にサンプルを作っていただく、大分先に始まったので、時間が取れたので、作っていただいたやつを見ながらプレゼンをしていただいて、そ

ここで1社1社の製品を見てっていうことで、やった経験はあります。ただ、あくまでもそれはメーカーを選ぶためのプレゼンで、さらにメーカーが1社決まってから、さらに細かいところを要望して、もう1回作り直していただいたっていうような、2段階的な感じだったんですのご意見ありましたが、何かその、ものを見ないで決めるっていうのが、自分も実は経験がないので、非常に難しいなんてことを皆さんのお話を聞いて思ってたんですけれども、実際その時間のスケジュール的なものがやっぱりどうしてもあるのかなんていうふうに考えます。ただ、あと難しいのは基準を合わせるって非常に難しくて、当たり前なんですけれども、それぞれ印象が違うので、ただ、片や相談するとそちらに今度引っ張られてしまうという可能性もあるので、それも良いようで悪いように働いてしまうかなという不安もあって、すみません。どっちつかず意見なんですけど。

委員長：はい、ありがとうございました。基準はかなり難しいかなとは思っておりますけれども、最終的には各個人ごとに主観になってしまうと思えますけれども、それで何かしら選んでいただくしかないと思うので、どっかのラインで割り切りは発生するのかなと思っておりませんが、ある程度はやっぱり基準、評価指標は設けたいと思ってますので、これをまず、今回決めていければなというふうに思っていますけれども、タイムスケジュールは、もうこれで確定とさせてもらうということだったので、よろしいですか。はい、お願いします。

委員：事務局に確認なんですけど、体操服・制服はこの日のうちに選ばなければいけないんでしょうか。例えば、先ほどの僅差になったときに、もう一度話し合いたいとかいう時間はいただけないのか、確認をお願いします。

事務局：このコンペ終わった後については、3社のうちから1社を選ぶという形になるんですけれども、その1社を選択するのが難しかった場合というご意見でよろしかったでしょうか。

委員：はい、その通りです。

事務局：事務局案のところとしては1社選定した後に、続いてサンプルを作っていただく段階に入るんですけれども、そこでサンプルをどういったものを作っていただくっていう要望をお伝えする時間設けてるんですけども、もし結論が出ないとなると、また後日決めていただいて、サンプルの要望につきましても、また後日メーカーにお伝えするというような形になります。

委員：過去に遅れるという事例はありましたか。

事務局：過去のみどりの、学園の森、香取台につきましては、その日のうちにメーカーの方は選定いただいております。

委員：わかりました。ありがとうございました。

事務局：あと、もう基本的にこの場の方でその日に結論を出すのか、はたまた、後日回答という形にするのかによって、当日メーカーさんにその場においていただくのか、そのままもうプレゼン終わった段階で帰っていただくのかというところも決まってくるので、その点も決めていただければと思います。

委員長：はい、ありがとうございます。制服のスケジュールとかは多分、もう少し後でもいいってところの回答だったのかなと思うんですけども、我々もこうやって集まるのを回数増やしていくのもかなり大変になってくると思いますし、どこかで割り切らないと決まらない部分もあるので、引き伸ばすのもいいのかな、どうかなっていうところもあると思うんですけども、とりあえずは事務局の提案の形で、やや強引になるのかもしれませんが、この形でいければと思いますが、そこに対して何かご意見とかありますでしょうか。この点につきましてはもう1日のうちにメーカーさんを選定して、要望もお伝えするというところで事務局の提案でいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。スケジュールはこれでついで

うことにさせてもらって、そしたらあと、どういうふうを選定するかですね。この辺についてある程度、固めていければなとは思っておりますけども、先ほどもあった通り、学森のやり方はかなり素晴らしいなというふうにご意見を聞いていて思った次第ですけども、実際にやって、細かくし過ぎて、結局僅差だったなら細かくしすぎるのもどうなのかなと、もっとシンプルにするのも一つの手だと思いますし、各社毎の後に評価するのか、一旦、また全員聞いた後に評価し直すとかですね、いろいろ難しいと思うんですけども、この辺、どうしていくかを決めていければなと思っておりますけども、どうでしょうか。皆様それぞれのお話を聞いて感じたこととか、もしあれば、ご発言いただければと思いますけども、どうでしょうか。はい、お願いします。

委員：はい、まず選定基準に関しましては、先ほどの前例じゃないですけど、多分その内容って前回の会議とかでも出てきたような内容ばかりなので、そこを基準に指標として定めさせていただいて、やっぱり後は点数化するのが一番見える化としてはわかりやすいので、それがいいのかなとは個人的には思います。あと、その都度採点するのか、まとめて採点するのか、これなかなか難しいところなんですけど、どちらも良い悪いはあるんですけども、まとめてやるとどうしても最初に発表したところって、印象が薄くなってしまうっていうのがあるので、その都度やる方がいいのかなとは思っています。

委員長：はい、ありがとうございます。他は皆様、どうでしょうか。はい、お願いします。

委員：はい、この5段階評価というのは、私たちが決めるのでしょうか。先ほどご提案いただいた、デザイン性、あと機能とかそういう5段階評価っていうのは、こちらの委員で決めるのか、事務局の方で出していただくのか。それを今から私たちが決めるっていう形でしょうか。

事務局：はい、事務局です。今、前回の採点表があるので、それを見ていただければと思うんですけど、基本的に準備委員会さんの方でということでの話だったと思います。今回、メーカーを選ぶだけですので、例えば A、B、C っていう 3 社が来ますので、A、B、C のそのうち一つだけ丸を付けてもらってというのでも構わないと思うんですね。香取台は自分たちでこういうふうに作りたっていう話で、採点基準を作っていただきました。結果を伝えた後には採点基準をメーカーさんに公表しますので、例えば落ちた会社さんとかは聞きに来ますので、それに対しては準備委員会で基準表を作ったので、メーカーから問い合わせについての回答はお願いするような形でした。その辺の採点表については、前回みたいに細かくするのか、単に A、B、C に丸だけつけてもらって、一番多いのにするとか、それはいろいろなやり方があると思いますので、皆さんで決めていただければと思います。

委員：はい、ありがとうございます。結構細かく評価基準があったと思うんですけど、先ほどもおっしゃってたようにあまり細かすぎても悩んでしまうかな。この時間内にこの選定ができるのかっていうところなので、これを皆さんで簡単にしていくっていう方法を基に考えていけたらなと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。基本的には委員会の方に一任いただけるというような回答だったと思いますので、この場で決めていければなと思っております。一番簡単なのが A 社、B 社、C 社で我々が多数決で決めるのが一番簡単なのかなと。一番複雑なのが先ほどご紹介のあった学森のような形で、5 項目かつ 5 段階みたいな形かなと思ってますけども、あとその中間かなというところで、はい。ご意見いただければと思います。はい、お願いします。

委員：はい。5 段階だと点数バラつきにくいのかなと私は一瞬思ったので、も

う 100 点満点で、もうちょっと細かい点数配分を例えば機能性に 30 点、価格に何点みたいな、その方が問い合わせが来たときにきちんと説明ができるかなとも思いました。

委員長：はい、ありがとうございます。今、お手元に、これ学森の時のがありますので、この辺を参考に決めていければなと思いますが、見た感想とか、皆さん率直にどうでしょうか。一応こういうのを作っておけば、メーカーさんに対して説明力は確かにあると思いますので、あとは実際にやってみて悩む部分はもう割り切りでやっちゃう。僅差になっても点数で決めちゃうのか、あとはもう少し協議で決めるとかいろいろあると思うんですけども、その辺踏まえていかがでしょうか。はい。お願いします。

委員：こういう服装についてではないですけど、評価をするときにやるのは、この評価の基準点書いても、例えば 3、2、1 ってつけても 5、4、3 ってつけても、人によってそこってばらつくじゃないですか。なので基準点の表は作るんだけど、最終的にはその A 社に対する総合評価を 1、2、3 でつけてくださいみたいにするのと、3、2、1 とつけた人と 5、4、3 と意味は一緒なんだけど、点数が平均した時にばらついちゃうっていうところを抑えられるので総合評価を最後に入れておくっていうのが私のおすすめです。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。おっしゃる通りクロスをかけるような形の総合評価ですとか、あともう少し言うのであれば、回答割合ですか、前回のアンケートでも制服について重視することとして機能面が 84%、価格が 70%とかあるんで、これを今、おっしゃったような形でやるのか、この辺が方法論としてあるのかなとは思いますが、その辺含めて思ったこととかいただければなと。その辺が掛け合わさっていくと差は多分なくなってくるので必然的に我々が 5 段階で選んだ結果が、そのまま適用されるのかなというふうに思っておりますけども、いかがでしょうか。はい、お

願います。

委員：はい。私も先ほどが言われたのと近くて、やっぱりこういう内訳作っておくのは個々人がフェアに判定できるためのメモというか、ものさしであって、その内訳っていうのをつまびらかにする必要はないのかなというふうに思っています。1社に丸をつけるのか、1位に3点、2位に2点、3位に1点つけるかっていうのはどちらでもいいかなと思ってます。個人的には1社に丸でいいかなと思っています。評価項目は、4と5っていうのは、今回のプレゼンの中で十分評価できるものなのか、それとも、もうあらかじめそこはクリアしているという話が冒頭にあったんで、この評価項目から外してしまうのか、そういったところかなというふうに思いました。あと、機能性品質、ここら辺がやっぱりアンケートでも重視されてるところだったので、機能性・品質っていう一つの項目にするんじゃなくて、着心地とか耐久性とか、あと何でしたっけ、洗濯機で洗えるかとか維持管理性みたいな話も少なからずあったと思うんで、項目として分解してもいいかなと思っています。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。確かに4、5は事務局で担保していたいでいるので、やるとしたら1から3で、2をもう少し細分化といったところが、妥当なところかなというふうには私も聞いてて思った次第です。なかなか評価項目を入れるのか、A、B、Cの3択だけでやるのか、決めにくいと思いますけども、どうでしょうか。学森のやり方を踏襲をしながら、先ほどの意見をカスタマイズしていくような形が、何となくいいような感じにはお話を聞いてて思いますけれども、そんな形でよろしいですかね。一応皆さん今のところ大体領いてらっしゃるので、その方向性で、もう少し具体的にと思いますけれども、評価項目に関しては先ほどお話あった通り、学森の事例の中から1のデザインと機能性・品質と価格でいくか、機能面のところは何だろうな、分けるとしたらこのままなのかな。着心地、

耐久性、機能性を分けて、5個にするのか。どうでしょう、皆様、率直な意見として、いかがでしょうか。その場で見て触っただけでどこまでわかるかがちょっと難しいなっていうところは実感としてはありますが、どうでしょう。

事務局：よろしいですか。

委員長：はい、お願いします。

事務局：今まで新設校のコンペに携わってきたので、その正直な感想を申し上げますと、学森の時には確かにこの項目でやりました。これで見えていて一番難しいのが、2番なんです。1番もそうなんですけど。なぜかといいますと、今回のコンペは会社を選ぶので、それぞれの今までの実績とか、こういうものがありますよっていうのを持ってきたり、カタログで説明をされます。当然、良いものを持ってきたりします。今の学森の製品より良いものだと、当然価格も上がります。次に考えてもらうのが、選ばれた会社さんには研学用のを3つ作ってきてくださいってお願いしますので、コンペに持ってきた素材、ものを次の時に作るか、使うかっていうことが、また別問題になってしまうと。選んだ会社さんのその素材を皆さんが選んだと思っても、それは次の研学には使わないってことにもなるので、こういう項目を基にただ判断してくださいってことであれば別なんですけど、この項目に全部点数付けする時には、それを前提に考えてくださいってことがないと、非常に難しいかなと。当然会社のPRですから、良いものを持ってきたり、良いものを説明します。それは当然、価格に即反映します。なので、個人的にはこういう項目をもとに評価して単にA、B、Cでどれか1つにしてくださいっていうのだと、一番わかりやすいかなと思います。先ほどの1、2、3っていう、これはあくまで会社の順位付けじゃなくて、1社だけ選びますので、順位をつけるというよりも1社選んでもらった方がいいかなと思います。この項目については、今までを考

えるとメーカーが決まった後、研学用の3つを持ってきますから、それを例えばマネキンとして学校に置いて保護者さん、お子さんたちに選んでもらうときに、こういう観点で今の3つのうちどれがいいか選んでくださいという項目なら、何となくわかる気もするんですけど、あくまでメーカーを選ぶための項目としては、この1番、2番とか価格についても難しい部分かなっていう、そこは、誤解のないようにやっていただかないと、先ほど、意見がありました通り、1から5の評価の基準ってそれぞれ別なので、難しくなってくると思います。

委員長：はい。ご説明ありがとうございます。まさにそうだと思います、結局デザインと機能と価格に対して各メーカーさんの姿勢を評価するっていう形には多分近いんだと思います。なので、単純にA、B、Cっていうようなやつにするのも一つの方法ですけど、デザインをA、B、Cのどれにするのかとか、機能面をA、B、Cのどれが一番アピールが上手だったのか。取り組み姿勢がしっかりしていたのかとか、その辺で評価するのかなというふうに思ってますので、単純に5段階というよりかは、デザインでA、B、Cみたいな形でやるのも、もしかしたら一つの方法かなというふうにとりあえずはしたんですが、どうですかね、今の事務局の説明を踏まえてまた思ったことがあれば、ご意見いただければと思います。はい、お願いします。

委員：はい。今、事務局のおっしゃったことが本当にその通りだなと思っていて、私たちが作りたいものを、作ってくれる会社を選ばなきゃいけなくて、そうすると、私たちが求めるのはアンケートで素材が良くて、でも安価なもの。そういう提案ができる会社を選びたいなと思いました。例えばこういう工夫がある。私たちの知らない業界の中でのこういうやり方をすれば、安くてもいいものがつくれますよっていうようなところを知りたいなと思いました。

事務局：よろしいですか。事務局です。まさにその通りだと思いますので、なぜ今回、このコンペで A、B、C って書いてて、先生から今、会社名教えてもらえますかっていうお話だったのに、ちょっとそれはって言ったのは、会社を名前で選んでもらうものじゃなくて、素材とか皆さんがここがいいっていうもので選んでもらった方がいいかなと思ってるので、すべての会社さんに A、B、C って形にして、持ってくるものすべてに、今の会社名を全部なくして、出ないようにしてのコンペにしております。その中でそれぞれの会社が、うちの会社はこういうものなんだよ、こういう独自のものを作って、こういう販売方法がありますよっていうものを資料で全部出してをもらいながら、当日は説明していただくんですけど、夜にやる形なので、時間が限られておりますので、事前に資料を皆さんにお送りして、少しでも時間を短縮しながら皆さんがお聞きしたいことを、もっと聞けるような形にしますので、質問も事前に考えてきていただければ、ある程度のものはできますし、香取台のときもそうだったんですけど、メーカーが説明しながら、マネキンを持ってきますので、プレゼンの間に皆さんに触ってもらいながらということもできますので、そういった中で、どのメーカーが本当にいいかっていうのを見極めてもらうことになるのかなと思います。

委員長：はい、ありがとうございました。A、B、C で決めるのも当然いいんですけども、そう、すべてを含めて A、B、C にするのかなどうか。あとはそれぞれのデザインが強い会社とか、コストバリューの強い会社。ロットいっぱい持って、大量生産できる会社であれば価格対応安くなったりもしますし、機能面で言えば、高素材の材料のメーカーを知っていてそこを持ってくるとかですね、会社ごとによく調べていけば毛色は少しずつ変わってくるはずなんですよ。なので、単純に A、B、C を一択で選ぶっていうだけではなくて、評価項目ごとに分けて、デザインを重視した形で、最終的に総

合評価するのかとか、その辺が一つの最終的な結論なのかなというふうに聞いてて思ったところなんですけども、どうでしょうか。もう本当に単純に、何も評価項目を考えずに A、B、C だけで、決めて、多数決で一番多いところにするのか、もう少し噛み砕いてデザインの取り組み姿勢ごとに A、B、C にするのかとか、その辺、皆さんどうでしょうか。はい、お願いします。

委員：今の質問とちょっと話がずれてしまうかもしれませんが、私は今の今まで、今回のコンペの目的が、制服を選ぶコンペというふうに捉えていました。先ほど事務局の説明で、そうか違うんだ、会社を選ぶコンペなんだと、ようやく気づきました。ただ、前回のコンペの際にも、やはり同じような意識の差というか、私のような勘違いを保護者の方がされていた可能性はあると思うんです。この学森の基準っていうのは、あくまでもコンペの基準ということでよろしかったんですよね。制服を選ぶときの基準ではないわけですよね。

委員：今、おっしゃられたように、この基準は学森のコンペの際にも事務局の方からちゃんと念押しというか、説明があったんですが、あくまでその制服ではなくて、制服を依頼する会社を選ぶコンペだと。ただやはり今、先生言われたように、学森の時もコンペの合間に実際にそのサンプルを触ったり、着たりする時間があったんですが、それってのはそのサンプルを触ることによって、そのサンプルの評価がその持ってきたものに対する評価が入ってしまったことによって、依頼先を選ぶっていうところで、ちょっとブレの要因というか、悩ましい部分があったんだなと、今更振り返る部分ではあります。そうですね結構、学森の時は長時間にわたって、なかなかコンペというのももちろんプレゼンする方も大変ですが、聞く方も結構大変で、お話を聞いて、判断するって結構精神的にしんどい作業になると、そういう大前提が時に頭から抜けちゃったりとか、そういうこと

も有り得たように思います。ですので、そこは、今回何のためのコンペなのかっていうところは、皆さんでよくよく確認しながら進められるのがよろしいかなと、学森の反省も含めて思うところです。以上です。

委員：実際に会社を選ぶという観点で、こういった項目があるとよかったなっていうなことは、当時の記憶でございますか。

委員：当時、もうおそらく5年前、6年前の話になるんですが、社会情勢ももろもろ大きく違ってまして、その当時これをやっとけばよかったってのは、ちょっと今すぐ思いつかないんですが、例えば今ですと会社さんが、例えばエシカルな運営を行ってるかとか、あとはSDGsの観点からどうかとか、そういうその辺のバリューも含めた評価なんかも、今風でいいかなと今ふと思ったところです。

委員：当然メーカーはアピールするために、機能が良いもの、着心地が良い素材を持ってくるけども、実際我々の要求する価格帯と違って、全く違うものが提示される可能性があるというお話もあったので、それじゃ何のためのコンペなのかなっていうところもあったんですけども、理想は高いけどもその理想を実現するために価格もこれだけつき合ってくださいねっていうことにもなりかねないし、何を基準にすればいいのかなというのが今、改めてあって、先ほどがおっしゃっていた、作りたいものを作ってくれる会社を選ぶための基準。今はぱっと思い浮かばないんですけども、そういったやっぱり基準があれば、当日は審査しやすいのかなと。単純に直感でAが1位、Bが2位っていうよりは、ある程度の何か基準で評価できればなというふうに思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。結局は取り組み姿勢なんだと思いますけども、それを細分化するかっていうところかなというふうには思っていて、どうですかね、もうぶっちゃけデザインとかそういうのはなくして、会社の取り組み姿勢で、真摯に向き合うようなプレゼンだったのかですと

か、あとはあえて入れるのであれば、SDGs みたいな社会環境の貢献の取り組みの説明があったかないかみたいところで判定するとかそのくらいかなというふうには思ってますけども。あとはデザインとか機能面と価格とかに関して、プレゼンの時間自体がそこに注力していきたいっていうことの裏返しだと思うので、その辺も入れ込むのか。何となく取り組み姿勢だと、どこら辺が強く、サンプルを持ってくるような会社なのかがちょっとわからなくなってしまうので、その辺は少し分けてもいいのかなとも思ったりはするんですけども、実際に物を見て判断するというよりか、それぞれのデザイン、機能、価格、どの辺に説明の時間を割けるとか、どういうふうに説明をするかとかっていうところの直感を大事にして、それぞれごとに1、2、3くらいは判定してもいいのかなと思ったりもしましたけども、どうでしょうかね、なかなか一つの方法論に決めていくのは難しいところであるんですけども、どうでしょうかね。はい、お願いします。

委員：さっき事務局の方が説明してくださったので、すごいよくわかったんですけど、会社のアピールということで、すごく良い素材と何か持ってきていただけるっていうことで、何かそのサンプルとしての何か、機能性とか価格とかは高いけど、こういう服ですっていうのと、中間ぐらいのと、ちょっと安価だけど、安いけどこういうのを作ってますみたいな、3段階とかのサンプルっていうんですか、こういうのを作ってますみたいなのがあれば、この価格だとこのぐらいのものができるんだとか、高くなるとこんな良い生地だけどこんな高いんだとか、安くてもこれならありだなとか、そういった目安になるかなと思うんですけど、そういうのは可能なんでしょうか。

事務局：はい、事務局です。会社さんには、価格帯については、当然、今扱ってる価格帯、いくらからいくらっていう目安を出してもらおうようなことがありますので、会社のPRが一番良いものを持って来るって言っても、持っ

てきてもらうのは、今、どこかの学校で納品してるものです。全く納品してない実績のものは持って来させませんので、それはご理解いただいて、どこかの学校では既に使っているのを持ってくる。例えばそれが、今年度から採用された新しいものを持ってくるか、それより前のだけど自信があるものを持ってくるかはメーカーさん次第なんですけど、先ほどのお話は、例えば、一番高いもの、真ん中のもの、一番価格帯が低いものをサンプルとして持ってきてくださいってことはお伝えすることはできます。それはメーカーにお伝えすればできるので大丈夫です。それで、先ほど四大メーカーですってお話させていただいたので、車で言えば、トヨタ、日産、三菱っていうようなメーカーが来るような形ではありますので、そこのご希望であれば、今の3種類は必ず持ってきてっていうことをお伝えはします。ついでに付け加えますと、おそらくその3つ以外に、サンプルとしてメーカーは、場合によってはハンガー掛けで持ってくる場合もありますし、その場で実験的なこともやるようなこともあります。

委員長：おそらくメーカーも必死だと思うので、この委員会の過去の資料とかでアンケートとかも多分公表されているので、そのニーズが大きいところとかを普通であれば一番の売りにしてくるんですよね。私もこういうの経験ありますが、なのでその辺で、アンケートをしっかり見た提案になっているかとかですね、そういったところを我々判断の材料にして加点するとかですね、その辺はあるのかなと思ってますので、結局のところ、いろんなアピールをしてくると思うので、そのアピールした中でどれが一番いいかといったところを我々の主観で選ぶしかないので。ただし嘘は多分言っていないと思うんですよ。めちゃめちゃいい機能だったら絶対高くなると思いますので、その提案が来たらちょっと我々のニーズとしてちょっと合わないの、ある程度の機能で安いっていうところは、多分我々の一番の落としどころだと思うので、その提案が一番できたところは結果的に

選ばれるのかなと思っているので、そこら辺で多分、メーカーで差が出てくると思うんですよ。そこをうまく我々の方で見極めて、結論を出していくのかなというふうには個人的には思っていますので、その辺を見据えたときに、どういう項目がいいのかなっていったところをですね、今日、結論出せばなとは思っていたところですが、なかなか発散して收拾ができないんですけども、今日絶対決めないといけないですか、それともある程度持ち帰って、我々、事務局と先生たちで少しメールベースとかで意見交換して固めたものを事務局に出すとか、その辺はどうですか。

事務局：極端な話をしてしまえば、コンペの前日までにこの評価基準が決まれば、当日コンペには入れます。事前にメーカーさんにはお示しはしません。ただ場合によってはコンペが終わった後に、どういった感じで評価したんですかっていうところは、気にされるメーカーさんがおりますので、そういったところについてはこちらの方からご提示するような形になるかと思っています。

委員長：はい、ありがとうございます。ということでなかなか決められないので多分、我々、保護者側の中で何個か案を作って、意見をちょっと集約して固めていかないと多分発散だけして、決まらない気がするので、もしよろしければ今日の意見を踏まえて私の方で素案を作らせてもらうので、それをベースに議論して決めていければなと思ってますけども、そんな形で、皆さんよろしいですか。メールでもまたご意見いただければなと思ってますので、一応方向性としては単純に A、B、C だけでマルバツというよりか、もう少しブレイクダウンしていった方がいいのかなっていうご意見が多かったので、多少細かくしつつ、デザインの細かいところというかデザインに対する各社の取り組み姿勢とかですね、そういったところに評価ができるような作り方という形で少し決めていければなと思ってますので、概ねそんなところですかね、皆さんの意見的には。そんな形で早めに私の方で

案を作って皆さんに配信するので、調整して確定していければなと思っていますが、それでいいですか。はい。ちょっと結論が出なかったんですけども、こういう形でお願いします。あともう一つ資料2の方がまだ全然議論できていなくて、こちらもなかなか、議論が難しい点かなというふうには思っておりますけども、学森の規則がこちらの資料ということで、皆様見て、初めて知ったよとか、こんなのあったんだっていう感じが率直な意見だと思うんですけども、私も実際そうです。これと同じようなものを研究学園小・中学校版も最終的には作っていければなというふうに思っていますが、とりあえずこの辺を見た上で、何か今回の適用した場合にどうしたらいいかとか、ご意見あれば、ぜひお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

委員：はい。この資料2のところで、皆さんとの認識を確認させていただきたいなと思っているところがありまして、今回は、学森は制服というものがまず大前提にあります。制服があって、スカートであれば、グレーもいいですよ、一部色変えてもいいですよっていう形になっています。今回作るものは私としては、標準服。アンケートでも、ブレザー指定って言われても何を着ていいのかわからないとか、あとは約半数の方は制服がいいという回答もありました。なので、そういう方々のために標準服というものを作って、この服装規定のモデルになるもの。こういう形に則って皆さん選んで、販売店以外でも購入いいですよっていう認識でおります。なのでその前提について皆さんとの認識をすり合わせたいなと思っています。以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。若干そこがもやっとした形で委員会が進んでしまったので、改めて確認をさせてもらえればなと思っていますけども。特に制服で言えばブレザーだけに関しては、以前の委員会でも事務局ですとか学校から、標準というよりかは作ったものを完全に購

入いただくような説明だったのかなというふうに思っているんですけど、ちょっとその辺、改めて事務局から補足いただければと思いますけども。

事務局：補足といいますか、これまでの皆さんに意見いただいていた中では、学園の森のこの規則に則った形で進めていくというふうに認識をしております。そこは制服とするのか、また標準服とするのかといったところはあろうと思うんですけども、基本的にはこの学園の森に則って、基本一式、制服・標準服は作って、一部ズボン・スカートの部分は市販品をOKとするですとか、そういったところに幅を持たせる。そういったご認識でございました。はい。

委員長：多分ちょっと解釈の違いなんだと思うんですけど、標準と指定っていったところで標準っていうふうにすると、作ってるけど別に選ばなくていいっていうふうに解釈をされてる方もいらっしゃるのかなと思っていて、ブレザーに関しては標準でなくて指定したものが絶対条件じゃないのかなというふうには思ったりしたんですが、その辺をお願いします。

事務局：そうですね、ブレザーのところはあの時点で学校さんの方にもちょっとヒアリングをさせていただいて、一応ブレザーに関して指定がいいということで、実際アンケートの方にもそういった記述の方させていただいて、アンケートの方をご回答いただいた経緯もございますので、ブレザーに関しては指定という形で認識しております。

委員長：はい。あと、体操服の方も確かそういう意味では、長袖・長ズボン指定なんですよ。

事務局：事務局です。一応制服・体操服ともにアンケートをやらせていただいて、体操服の方は長袖・長ズボンともに指定とさせていただいて、それ以外の部分も聞いたところすべて指定が良いというところが一応7割程度ございましたので、そういったアンケート結果あるというところも含みおきいただければと思います。

委員長：はい、ありがとうございます。そういう状況を改めて再認識した上で規則を考えていければなということで、多分、今日で全部決める必要はないと思うんですけども、一部決めていかないといけないことがあるのかなというふうに認識していて、指定か標準かっていうところはあるんですけども、標準にするのであれば、メーカーさんにそれをお願いしないといけないところが出てくるかなと思っていまして、制服で言えば、とりあえず物を作るというところであれば、ブレザーとネクタイ、リボン、ズボン、スカート、スラックスくらいまでは確実にメーカーさんをお願いするような形で皆さんご認識を持たれていると思うんですけども、シャツに関してメーカーさんをお願いするかどうかっていったところは実はあまり話していなかったんですが、学森の事例を見ると、シャツも指定品にされていて、毎回着るというわけではなくて、式典だけの時のものは指定品というふうになってるんですけども、この辺、今回の新設校も踏襲するのか、もしくは指定品は全く作らずに、もう白のシャツだけでいいんじゃないかとかいろいろあるかと思うんですけども、この辺ちょっと皆様のご意見をいただければなと思うんですけども、いかがでしょうか。はい。お願いします。

委員：ちょっと話を戻してしまつて申し訳ないんですけど、私はブレザーはと同じように、それこそ紺色で、ワッペンをつけかえるなりすれば、OKみたいな選択肢を残すべきだと私は思っています。そうじゃないと、一番高い2万円のジャケット皆さん買いなさいってことが前提になるので、別の学校で、兄弟が来ていた紺色のブレザーがあります。ほとんど見分けつけません。だけどそれ着ちゃいけませんというふうになってしまうので、何かそこまで大して違わないものに縛りかける意味を私は感じないので、私は先ほどおっしゃったように、色指定ぐらいがリーズナブルなんじゃないかなと思っています。話戻して、シャツのことなんですけれど、シャツについては、校章を付けるから指定にしなきゃいけないのであって、白いの

だったら何でも OK としたら、どこの学校のでも買えるし、5,000 円のを着せたいんだったら 5,000 円のを着せればいいし、量販店で 2,000 円のを着せるっていう手もあるわけですから、色指定ぐらいで私は十分だと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。シャツに関してはあれですけども、ブレザーが多分、事務局とか学校の方では統一感のところから指定をなるべくして欲しいというようなご要望が強かったのかなと思っておりまして、なかなか委員の総意としては決めきれなかったと思うんですけども、概ね、それを受け入れるというような形になったのかなと思ってはいるんですが、皆さん改めてここは譲れないとかっていう部分がありますか。

委員：はい、確かにブレザーを統一しようという話で進んでたとは思うんですけども、よくよく考えると学森から移ってくる方は、学森の緑色は OK ですよね。さらに他校から転校してくる方がベージュだったらそのベージュのも使っていいということになりますよね。そしたら統一感というのは、もうその時点でないと言ったら変ですけども、もう大体のものでいいんじゃないかなっていう感じがします。その家庭の事情によって、転校してくる方は、その家庭の事情によってそれを OK とするのであれば、もうみんな OK にすれば、その人だけが目立たない、逆に 1 人だけ違うっていうことも避けられることになるんじゃないかなと考えています。

委員長：はい、ちょっと昔に議論したことの再議論なのかもしれないんですが、多分最初は当然、皆さん学森から移って来るので、8 年生、9 年生はほぼほぼ学森の制服で、7 年生が新しいっていう形になって、そこは仕方がないのかなというふうに思ってますけども、2 年、3 年経つと基本的には持っていない方が新規で買うって形なので、概ね、同じものになっていくのかなとは思ってますし、春日から学森の事例とかを見てると、そんな形で、一体感もある程度担保されてたんじゃないかなというふうには思いますけ

ど、その辺、先生たちとかもし何か開校した後何年も経った後で赴任されているのでわからないかもしれないんですけども、何かあれば、はい。

委員：今、委員長がおっしゃった通り、制服と称するものを着ていれば、ある程度の一体感というのはもう保てると思います。ただ、だからといって、ここで何か新入生説明会だとかこういった一覧表を出すときに、何でもいいですよみたいな形で書くと選ぶのに何着ればいいのかってなるので、やはり、後で提案というかお伺いしようかなと思ったんですけど、ここで言う指定品というのはやっぱり出して置いて、ただ明記して転出前の学校のものを着用しても構いませんとか、そういったことを示していけば、その強制感といったものは省けるのかなというふうに考えます。あとちょっとついでに、制服って呼んでたのを、標準服って呼び方を変えた記憶があるなと思って今、思い出しました。で、はっきりとその理由は、覚えてないんですけども、強制感を省くといったことではなかったかなというふうに思います。ですので、一番左の列の制服等のところを標準服等というような言葉を使って、左から3列目の指定品っていうところの言葉として、推奨品とかというような言葉にすれば、少し縛りが柔らかくなるのかなというふうに提案をさせていただきます。その言葉が適しているのかどうかというところで、何かの機会で議論していただければと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。転入生とかは前の学校の使っていたくっていうのものは、もう大前提として担保されてるのかなというふうには思っています。多分問題なのは新しく買う人に対しての対応の範囲を決めていくところだと思っていまして、このメーカーさんに作ってもらうものが100%新しく買う時には必須なのかどうかといったところが議論のポイントなんだと思うんですよね。今までの事務局のお話だと、100%必須というふうにしたいというな思惑なのかなと思っていたんですけども、そこは事務局としてどうでしょうか。

事務局：前回のときは、アンケートの結果を出していただいて、制服についてはブレザーは指定なんですけどその他の部分、一部指定についてのがいいっていう形でなったと思うんですね。その他、ネクタイとかそういうものは指定にした方がいいですってというのが、項目として高いって感じのアンケート結果だったと思うんですけど、その上で最後確認させていただいたときに、皆さんも今の学森については今の制服プラス、ズボン、スラックスやスカートもグレーとか選べるっていうことが、知った状況だったと思うんですけど、その上で、最後にこのコンペやるにあたっては、学森に準じますっていうお話だったので、我々とする今回は今の学森のように上からブレザーを全部あって、プラスαグレーとかそういうのを今度作る形で、コンペをメーカーにもお願いしたような経緯があるんですね。なので、今の話で標準品とかとして、紺であれば何でもいいですよってことになれば、今回メーカーさんと呼んで制服については、コンペをやる必要がなくなってくるかなと。

委員長：ちょっとそれは解釈が違うのかなというふうに多分皆さん思っていると思うんですが、基本的に前回の委員会で決まったことはメーカーさんに作ってもらうってことは決まったのかな。いわゆる推奨品は確実にブレザーからネクタイ、リボン、ズボン、スカート、体操服は作ってもらうかなと思ってましたけども、それをすべて、100%選んでもらうっていうような形に決まっていなかったのかなというふうには、多分これは皆さん共通認識なのかなとは思ってまして、その範囲をどうするかはちょっとこれから、この規則の中で決めていくというような解釈だと思うので、ただ、その中でもブレザーのところだけは、事務局として譲れない部分があるのかなというふうに思って今、ご質問させてもらってたので、ちょっと今のご回答は、少し我々委員のメンバーとの事務局の認識がずれているかなと思ってますので、委員会の議事録から一字一句起こしていくと多分、

我々の認識が合ってるのかなと思ってますので、ちょっとそこは事務局の中で統一意識を持ってもらわないと委員会やってきた意味もなくなってしまうので、再認識していただくことはできないですかね。ちなみにコンペの会社にも、すべて指定品というように何かの資料で明言されているんですか。

事務局：コンペをするメーカーについてはすべて指定品のようなことは伝えておらず、ブレザーから一式は持ってきていただくようなという形でお伝えはしております。細かいこちらの運用とか規則については特段の詳細はご説明しておりません。

委員長：というと、多分他の学校でも推奨品ということで必ずしも買う必要はないところも多いと思うので、メーカーさんもそこを覚悟した上で、臨まれるというふうに理解して大丈夫ですか。

事務局：ちょっとそのメーカーがどういう解釈をしているのか考え方というところは、改めて確認をさせていただきたいと思います。

委員長：そこで齟齬があると、辞退するとか、トラブルになりかねないので、そこはそういうふうにしてもらいたいと思いますし、学森だって、そもそもズボン、スカートとかっていうものは指定品を必ずしも買わないといけないとはないと思うので、多分メーカーさんもそんなところは気にされていない、覚悟されてると思うので、先ほどの回答がちょっとしっくりこなかったんですけども、その辺は大丈夫なのかなと思っていますが、はい。また改めてと思います。というところと、あとやっぱりいくら推奨品を設けて、前回のアンケートだと4割がすべて買っていただくような回答なのかなというふうに思っておりますけども、残りの4割の方が、ブレザーも買うか、どこまで買うかっていったところあるのかもしれませんけども、この方々に対して規則を設けないといけないのかなというふうに思っておりますけども、単純にこれから作る制服の色合いとか形と、準拠したもので

あれば何でもいいというふうに言っちゃうのかどうか。その辺ってのはどうでしょう。学校の方で推奨品とそれに準拠したもので若干違うことに対して、抵抗があるのかどうかとか、一体感の形成から良くないとか、その辺もしあれば、ご意見いただければなと思いますけども、どうでしょうか。

委員：その指定品で揃えるのが一番簡単かとは思いますが、今の時代、多様性も認める時代ですから、一概には統一する必要もないかなとは思っています。ですから色や形が、似ていれば、学校の指導としては問題ないかなとは思っています。はい。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。多分そこまでブレザーを指定品から外して推奨品というのが多分、今までの委員会だと、つくば市の中の事例が多分なくなることになるのかなというふうには思ったりするんですが、その辺で何か事務局、市として問題とか、抵触、規約から外れて問題があるとかその辺がなければ、多分、今の委員の中の総意とすると、ブレザーとか、体操着も含めて、あくまで推奨品というものにして、それを選ばない方に関しては同じ色とか形のものを買っていただくという方向性で結論を出さざるをえなくなってしまうんですけども、何か引っかかるものがあれば教えていただければと思います。

事務局：確認なりますけれども、一応推奨品という形で一旦すべて制服を作るメーカーさんの方にはもうとりあえず作っていただいた上で、ここで学森さんでいうズボン・スカートのように米印のところに記載がありますけれども、必ずしもそういったものを買う必要はないという形にして、ある程度カラーの指定とか、そういったところを限定させていただいた上で、そういったものの選択肢の余地を残すという理解でよろしいでしょうか。

委員長：はい。それが、委員の皆さんの意見なのかなというふうにはお話を聞いて思っていましたけども。何か市の規約とかに問題がなければ、はい、どうぞ。

委員：今の子供たちの現状ですが、もちろんブレザーは指定だから、みんな同じなんですけど、ズボンやスカート指定品もしくは各自で準備って書いてあります。スカートは、女子の方はチェックなんですよね。なので、ほぼ100%、この指定のものを女子は履いていると思います。はい。チェック以外を私は見たことない。あとズボンについて、男子は指定かどうか、ちょっと私は見分けはつかないんですけど、ちょっと変わってるなと思ったものを履いている子はいないので、指定がやっぱり多いのかなと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。おそらく推奨品というふうに、ルールを決めても実際としては結構買われてる方が多いのかなというふうには思っています。

委員：ですからね。その選択の余地を残しておくというのは、やさしい研究学園としてはいいのかもしれませんが。はい。

委員長：学校の先生もそういうふうにお墨付きをいただけるなら、市としての規約とかに引っかからない限りは、ぜひそうさせていただくのが、委員の総意なのかなとは思ってるところなんですけど、事務局の方は、結論出せないであればあれですけど。

事務局：事務局です。以前、アンケートをさせていただいたときに、一旦ブレザーのところは、指定でという形でアンケートを取らせていただきました。その中で一部指定の方が実際は5割以上という大体半分半分といったところだったんですけども、一部指定のところについてはネクタイ、リボンとかはすべて指定がいいというようなご意見もございました。アンケートをとる段階では、一応ブレザー指定というような聞き方をしていますので、そこを推奨品として、それ以外も認めるよっていう形になると、このアンケートを聞いたときの、内容ともちょっと変わってくるような形にはなるんですけども、また推奨品とすると、現状、今の学園の森の形は多少変

わってきまして、学園の森の方はズボン、スラックス、スカートの方は、ある程度標準品があって、あとはグレーのものであれば自由ただし今、ブレザーのところは指定品1着。で今回ご議論いただいでる中で見ますと下は同じような形で、ジャケットのところは、色指定とか、そういったところを指定して、推奨品とは異なるものっていうところを使っていくような形になると思うんですけれども、一応ここは学校さんの方に以前確認した時に統一感という形の中で、ブレザーは指定の方がいいだろうというご意見を踏まえて進んだ経緯もあるんですけれども、この点に関して学校さんの方はどうでしょうか。

委員長：そこは今、推奨品でもいいとご回答ありましたので。アンケートは確かにそうだったのかもしれませんが、その後の議論を経て、こういう結論を今この場で案として挙げさせてもらっているのも、事務局もしくは市役所として、規約とかに引っかからないのであれば、ぜひこの意見を入れ込んでいただきたいと思いますので、過去の経緯で否定するのではなくて、ルール上の縛りがあるのかないかっていうような観点から、ご意見とかを出していただけるとありがたいです。はい、お願いします。

委員：ですから、この表記の仕方としては指定品を標準とするが、いろいろな形が同じのものも認めるような感じですかね。はい。

委員長：今、おっしゃったのを事務局が認められれば、何も問題はないと思います。

事務局：はい、すいません。今この場で即答できかねますので、一旦こちら持ち帰らせてください。申し訳ございません。

委員長：はい、ありがとうございます。ちょっと持ち帰りになってしまいましたけれども、なかなか、意見が2転3転している部分もあるので事務局にもご迷惑掛けてるところは申し訳なく思っているんですけれども、せっかく良い機会ですしここで事例作ると、今後の学校、来年以降も開校するところ

ろがいくつかあると思いますので、その素材になるので、多分その時も同じような議論になると思うんですよね。ですので、ここで明確にしておく、市としてもいいのかなと思いますので、ぜひ、もう少し市の中でも議論を活性化させて、何か方向性を導き出して、ぶっちゃけ大きな話として、市の中の制服の設置基準みたいなものとかまで議論いただくと、この委員会でも、ポイントを絞った議論とかできると思うので、その辺も将来的には市役所の課題として考えていただければいいのかなとは個人的に思いました。ちょっと話がずれましたけども、なかなか結論が、今出せないとは言いつつもこの中でやっぱり長袖のシャツ、ネクタイ、リボン、ズボン、スカートとか標準品、推奨品を作ってもらってというふうに言ってますけども長袖シャツの標準品、推奨品を作るのかどうか。この辺を決めないと、メーカーさんにもお願いできなくなっちゃいますので、簡単に言えば、さっきおっしゃった通り校章付きのシャツを作るかどうかというところなんですけど、この辺は皆さん、必要性とか、実際に学森の方々の状況を見たり聞いたりすると、式典以外ではあんまり着てないっていうようなお話も多々見受けられますので、その辺、学校の方はどうですか、生徒たちは実際に指定品を着ているのかどうかとか、当然式典の時に着てくるように先生が言えば、着てくるんだと思いますけども、そこで統一感が必要なのかどうかとか、ちょっと何かご意見とかいただければと思いますけどいかがでしょうか。

委員：実はこの委員会で初めて青が式典用っていうのを知った次第なんです。

というのは、自分のイメージでは、ちょうど衣替えになってから、青を着ている生徒が結構いるなど、そこは違和感なく、むしろいいんだっていうようなイメージがあったので、あと、9年生の修学旅行は全員青で写真を撮ってたので式典に準じたのかなと、校内行事としても準じたのかなというふうに思いますが、式典以外で着ちゃいけないって認識はないのかなと

いうふうに思います。今現在も着ているかなと思います。で、あとそういう意味では、青色シャツ、青または白っていうのは、残していいのかなというふうに思います。後は校章をつけるかどうかというところで議論をしていただければと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。もしこの辺、記憶に残っていたら、やっぱり学森の委員会の時もシャツをどうするべきとか、議論の過程とか、その辺、もし覚えていれば少しコメントいただけるとありがたいんですが、どうですか。あまり記憶を取ってないですかね。

委員：今、お手元にある資料2ですが、こちらは基本的に春日の内容に準拠しているものと当時、お話を聞いた覚えがあります。その辺のシャツのくだりですが、先ほど春日学園の内容に準拠と申しましたが、ただ、そのままコピーではなくて、その当時の現状等も考慮しながら、必要に応じてその春日のままではなくした部分もあったと記録には残っております。ちょっととまとりませんが以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。基本的にやっぱり春日の事例を学森に転用されたという形なのかなというところですけども、どうですかね、今までの先生のお話とかも聞いてると、あまり指定品を作るメリットがなかなか見受けられないのかなというふうに感じたところなんですけども、単純にこの学森のところの青シャツの着用の下の式典以外の正式な場合は無地っていうようなところがあるんで、特にここは標準品・推奨品を設けず、規則の中で、白であればいいみたいな形でいいのかなというふうに私は皆さんの意見を聞いて思ったんですけど、そこはどうでしょうか。他に何かここは例えば、色の余地をもう少し残しておくとかですね。ただ式典の時だけは白にするとかですね、その辺とか、式典と式典以外で分けて規則を作るとかですね、その辺もあるのかなと思ってたりするんですが。今日、すべて決める必要ないと思うんですけども、何かご意見あればと思い

ますけどいかがでしょうか。特になければ長袖はメーカーさんをお願いしなくていいのかなという感じですかね。メーカーさんに標準服を作ってもらう範囲はブレザーとネクタイ、リボン、ズボン、スカート、スラックスと体操着であれば半袖・長袖は全部一式といったところをメーカーさんをお願いするということで、ここは皆さんよろしいですか。メーカーさんをお願いする範囲はそれにしたいと思いますけど、事務局は大丈夫でしょうか。

事務局：はい、事務局です。先ほどメーカーへのこのコンペの通知の場面で、それほど詳しい指定の内容ですとかそういったところは伝えてないというふうに申し上げております。ただ、基本的に前回の委員会の中で一応学園の森の形に準拠するというようなご意見がありましたので、ある程度、そういった形で各メーカーさんが想定されていらっしゃると思います。なので基本的なジャケットは指定のものがあって、それらの例えばスラックス部分がカラー指定で自由になって、製品を買わない可能性もあるっていうところはメーカー承知してるんですけども、ちょっと今日の議論を踏まえてですね、メーカーも想定していないところも多々あるかと思いますので、今日の議論の中身をですね、メーカーさんの方にもお伝えをして、こういう状況ではあるけれども、コンペの方に参加いただけますかといったところを確認させていただきたいと思いますので、一旦、体操服の方はさておきなんですけども、ちょっと制服のところはですね、そういった経緯もありまして、急ぎこちらの方でメーカーさんに確認を取って、皆さんの方にお伝えをさせていただきたいと思います。日程のところも現時点で確約できない形になりますので、一旦メーカーさんに確認とれ次第、共有させていただきます。よろしくお願いいたします。

委員長：はい、ありがとうございます。今の質問を聞いていただいた結果を踏まえつつ、シャツは基本的にはメーカーさんをお願いしない方向で、それ

も含めて確認していただければなというふうなところです。規則については今日すべて決める必要がないということだったので、あとちょっと、今日皆さんで持ち帰ってまた考えて、次の委員会以降で、少しその時に意見を改めて発言いただければと思いますけども、基本的にはすべてを推奨品にしていくってというような形にして、あとは、転入生は基本的に前のは OK といったところで、推奨品の時に、作ったものを買わない人の規則をどうしていくかっていったところがポイントとなってきますので、その規則をどう考えていくのかっていったところで式典の時はこれにして、式典以外はもっと自由度を持たせるとかですね、その辺が多分議論のポイントになってくると思いますので、シャツであれば本当にカッターシャツだけなのか、もう本当にもっと簡単な、夏だとポロシャツとか、この辺を OK とするのかとかですね。ちょっとその辺を少し、次回以降、ある程度固めていって、学森だと 1 月ぐらいに開校準備委員会の説明会をされたのかなということで、多分 12 月とかぐらいに、ここの委員会も来年、新設校に通う方々が対象の説明会があるというようなお話を聞いていますので、その時には決めてご説明しないといけないので、それに合わせて、考えて決めていくという過程になっていくと思いますので、またいろいろアイディアを出して、情報収集してもらってアイディアをまとめていただければなと思っています。現時点で何かご質問とか、気になる点があれば、ご発言いただければと思いますけども、どうでしょうか。よろしいですか。今日はなんか、あまり結論が出なくて、申し訳ないですけども、事務局の方々、これ以外で決めておくこととかあれば、教えていただければと思いますが、どうでしょうか。

事務局：すいません、一旦こちらで大丈夫です。

委員長：はい、じゃあこの体操服は一旦これで議論を終えたいと思います、ちょっと長くなっちゃって申し訳ありませんでした。引き続き今日は議題と

して校歌が設定されておりますので、資料としては特にはないんですけども、事前にいくつか校歌のサイトとか教えていただいて、皆さん多分聞いていらっしゃると思うので、その辺をお話しただければと思いますけども、今日の議事入れた意図とかを簡単に事務局から説明いただければと思います。

事務局：はい、事務局です。ある程度以前、前々回くらいの委員会の中で、作詞・作曲者の選定といったところについては、おそらく保護者、委員さんのお知り合いとかでもなかなか見当たらないというところもありまして、こちらの方に一任という形で認識しております。ただ、学園の森の場合ですと、ある程度作詞・作曲される方に対して、こういった形でお願いしたいとか、そういった希望を伝えたというところの経緯もございまして、先日、各他の学校の校歌の歌詞ですとか曲をお送りさせていただいて、そういったところを踏まえて、お願いする作詞・作曲の方に何か委員会としてご要望をお伝えする事項があるのか、そういったところを協議いただいて、実際、制作期間の方も迫って参りますので、そういったところも踏まえて、要望するのであれば、こういった内容を要望するのか、そういったところを皆さんで議論いただければと思った次第でございます。

委員長：はい、説明ありがとうございます。そうですね。多分、以前もお話したと思いますけども、物自体は、作詞とか作曲というものは多分プロの方に、この中にいらっしゃるのかもしれませんが、基本的は一任せざるをえないのかなというふうに思っています。そのプロの方が企画をしていく時のネタを提示しないと作っていけないのかなというふうに思っておりますので、その辺の素材をどこら辺まで提供するのかといったところをご意見いただいて、事務局を通じて伝えていければなというふうに思っていますので、その視点で少しご意見とかいただければなと思うんですけども、いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員：その素材っていうところとは離れて予算のところ教えてください。確か、確か1校100万円の予算って聞いてたんですけども、小学校、中学校を分けた場合でも金額は単純にそれを2分割に分けて受けるのでしょうか、1校あたりの予算があるのでしょうか。

事務局：事務局です。予算のところを詳しく言及した記憶はないんですけども、予算は確保させていただいております。ちょっと額のところは伏せさせていただきますが、小学校、中学校でそれぞれで金額のところは確保させていただいております。

委員長：はい。いずれにせよ、素人ではなくて、プロの人には頼んでいただけるということで、ただ、ものすごい有名な方とかまでをお願いできるような予算ではないのかなというところはあるんで、そこは多分、そう認識いただくしかないのかなといったところですけども、話が決まっていなかったのは小学校と中学校で、分けるか、分けないかについてだと思えますよね。名前も一緒になったし、校章も基本的にはほぼ一緒に場所も一緒なので、分けると統一感が逆になかったりするのかなっていう部分もあるんですが、どうでしょうかね、この辺は学森は義務教育学校だから同じものですけども、研究学園小学校、中学校はどうしますか、分けたほうがいいのかどうか、その辺何か皆さんご意見とかあればお願いできればと思いますけども、どうでしょうか。

委員：そもそも、その小学校と中学校っていう今回、一緒の時期に同じ名前で、同時に設立するわけですけども、学校としてはそれぞれ別で、その義務教育学校みたいに1校ではないっていう認識まではあるんですけども、となるとこれまでで行くとなんか紫峰学園とかそういう学園みたいなひとかたまりの関係はあるけどもっていう、そういう位置付けのものになるのかなとは思ってまして、学校が違うので校歌が2つあっても、何だろう理屈的にはいいかもしれないんですけども、やっぱり関係性ももちろん同じ敷地

にあるし名前も一緒ってなって、かといって今の学森みたいに1曲にするっていうのもまたちょっとって考えると、例えばなんですけども、同じ曲にして歌詞をちょっと発展させるとか何かそういうアレンジ的なものとか、多少繋がり感も持たせてあってもいいのかなとかというのは個人的にちょっと感じました。以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。あくまで予算は、小学校、中学校それぞれ確保していただいているという認識でいいですね。

事務局：はい。その通りです。

委員長：なので2つ作るところの予算あるということなので、ご意見は多分通るので、どうなんだろうな、でも発注の段階でやっぱそれぞれ作るところは決めておかないとまずいってことですね。例えば両方作って、良い方を両方に採用しちゃうみたいになっていうのは、さすがにNGですね。なので、ちょっと今お話にあったところで本当に1校にするのか、それぞれ分けるのか。完全に違うものにするのか、今、おっしゃったように近いものにしていくのかっていうものを、この委員会で方向性を決めてお願いしないといけないと思いますので、そこは決めていければと思うんですけど、今日中に結論出さないといけないでしたっけ。

事務局：そうですね今日中というところは、確かにもちろんあるんですけども、一応、今回事務局に一任いただくということで、要望自体はお伝えさせていただきますけれども、それがやはりお願いさせていただく方によって、それ通りに作っていただけるかどうかというところは確実ではないところがございますので、はい。ちょっとその点はご了承いただいて、そういったところ、そこも含めて一任といいますか、必ずしもその要望というところは、お伝えはするけれども、必ずしも反映はしない可能性があるかと。

委員長：はい、そうですね。そうしたら、もしかしたらそのお願いする方に対して、同じ学校名、同じ敷地内、ほぼほぼ同じ環境の中だけでも、建物と

しては分かれて小・中あると、小学校と中学校でやっぱり年齢がちょっと違うので、市のわかりやすさをとか含めて、詞はさっきの意見のようにわかりやすく簡単なものを小学校にするけど、作曲のところは全部同じするとか、その辺のやり方についてちょっと作る前にそのプロの方にちょっと聞き取りをして、フィードバックしてもらって、分けた方がいいよっていうご意見いただいたら、それで OK して、それぞれ作ってもらうとかっていうような過程を踏むことは、できるものですか。

事務局：現段階で明言はできないんですが、ちょっと難しい部分はあるかなと。

断言できずに申し訳ないんですけども。はい。

委員長：どうでしょうか学校として。はい、お願いします。

委員：個人的にちょっと伺いたいところあったんですけども、最近送っていただいた新設校の建設状況の写真なんですけど体育館は共用でしたでしょうか。

事務局：体育館は小学校の体育館と中学校の体育館がそれぞれ 1 つずつございます。

委員：間にあるけども別々の体育館ってことですね。

事務局：2 棟あるという形ですかね、小学校用の体育館、中学校用の体育館という形でございます。

委員：なるほど。あ、すいません。あの写真だけ見てて、小学校、中学校は別で体育館は共用なのかなと思ったので、今の 2 曲作った場合によく学校に校歌が貼ってあるので、別々のやつを作ると 2 つをどうやって配置するのかなってちょっと思ったものですから。

委員長：何か補足ありますか事務局、大丈夫ですか。多分歌うところは小学校、中学校それぞれの場所が区分されているということで、混乱はないのかなといったところですかね。はい。お願いします。

委員：すいません。その校歌を 1 年生から 9 年生みんなで歌うことっていうの

はありますか。そういうケースがあるのかなっていうところをお伺いしたいです。

委員：今はちょっとコロナで全校生徒が集まらない。それから、人数もすごく多くなってきて体育館で収まらないっていったところで、今現在はないんですが、ただ、開校当時等は、例えば、始業式や終業式は前期・後期分けなかったような気がするので、一緒に歌ってたのかなあというふうに思います。ただ今回の、小・中別々なので、体育館も2棟あるということで分けることはもちろん可能ですし、あとは学校運営上の問題というか、方針にはなってくるのかなあと思いますので、新しい学校で一斉に歌う機会があるのかどうかは、ちょっと何とも言えないと思います。以上です

委員長：はい、ありがとうございます。学校は分かれますけど、小学校と中学校の中の交流とかは結構持たせるような仕組みになっていくのかなと思ってますので、全く、小学校、中学校で別物という形ではないのかなと思います。そういう意味では、一体感は結構学森に近いのかなとは思ってたりはしますが、どうなんでしょうか、学森が今まで1から9年生、同じ歌詞で、ちょっとざっと見ると1年生とかからすると難しい言葉とかが多いのかなっていうふうには思ってたんですが、その辺はどうですか。そういった点が、現状として強いのであれば、分けたほうがいいのかと思いますし、そこが特にないのであれば一体感っていう形であれば、一つにしたほうがいいのかと思ったりしたんですが、どうでしょうか。

委員：一年生が歌う場面を実際にまだ見てないので、何とも言えないんですが、それは持ち帰って、去年の一年生、今年の一年生、低学年の担当の者に現状を聞いてみます。あとよろしいですか。事務局に確認なんですけど、これは施設分離型の小中一貫校という認識でよろしかったでしょうか。

事務局：はい、その通りでございます。

委員：研究学園小学校、研究学園中学校以外の学校がその小中一貫校に入るこ

とはありますか。

事務局：事務局です。今の話としては、その研究学園小・中の一つの学園の中に、他の小学校とか中学校が入ってくるかっていう可能性のことですよね。現時点ではそういった可能性はないです。

委員：そうすると、この小・中は単なる交流じゃなくて、やっぱり一貫校としての認識で、準備を進めていければなと思いますので、後はその一体感、学園としてとらえるか、発達年齢に応じて歌詞を段階的に、例えば小学校は1番・2番、中学校を3番・4番とするのか、先ほどあったように、曲は同じにするのか、別にするのかという議論になってくるのかなと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。今のお話聞いて保護者側の委員の方々とか、ご意見ありますか。はい。お願いします。

委員：校歌は節回しが難しそうだなって。もう言葉は音として聞いているので、わかってるかわかってないかどうかは別として、再現はできるけれど、言葉よりも節回しが難しいなど。最近の校歌ってみんなそうなのかなっていう気がするんですけど、そんな感じがします。事務局がおっしゃるように、我々は小学校と中学校と一体感のあるものが欲しいっていうことはそれを伝えるべきだと思っていて、その一体感をどう表現するかは、作詞・作曲の方が考えてくださればいいことなんじゃないかなと私は思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。なかなか結論は今出せないと思いますので、そうですね、一時的な事前引き取りみたいなのを少ししていただいてですね、今、がおっしゃったようなことですね、その感触を一旦フィードバックしていただいて、ある程度固めていくのがいいのかなというふうに思ったりするんですが、何かそんなことを聞き取りできたりしますか。今当てがあると思うんですけどもお願いする人にですね、その辺を具体発

注する前の相談みたいな形で、できますかね。

事務局：それは何とも言えないといえますか。そうですね。その方次第といったところがありますので、ただ、実際に作詞・作曲いただく方については実際にこの現地を見ていただいて、おそらく一緒の敷地内に小・中があるというところも、実際に見られますし、そういったところは作詞・作曲される方も考慮はいただけたらと思います。はい。

委員長：そうしたら、我々であまり指定はせずに、今日の議事録をですね、素直に渡していただいて、それで判断していただくような形で調整をいただくのがいいのかなと思っています。あとは学校の方で先生から、小学校の低学年の先生たちを中心にちょっと聞き取りをしてもらった意見もですね、それに、追加させてもらってお渡ししてご検討いただくと、で、その結果、分かれる二つにするのか、一つにするのかっていったところはですね、ご意見をいただいて基本的には我々も、プロの意見を受け入れるという形にせざるをえないと思いますので、そこはそういう認識で委員の皆様も言っていただければなと思っていますところ。その他、事務局を通じて、作詞・作曲の方々に絶対言っておきたいところ、当然学校名とか校章とか、校章のデザイン、意図とかですね、場所とかですね、その辺は当然伝えていただけたらと思うんですけども、それ以外で、これはどうしてもお願いしたい、例えば以前のお話にあった吾妻中学校のような、明るい感じがいいとかですね、そういったところとかがもしあれば追加でお伝えできればなと思っていますけども、ここはいいなとかっていうところがあれば、ご発言いただければと思います。

委員：前に小学校で校歌を作り変えることがあったって話でしたよね。なのでやっぱり、そういうことのないように、雰囲気明るいのがいいのか、ゆっくりなのがいいのかとか、そういうところは伝えておきたいなと思うんです。何か明るい元気になれるような、感じのいいなと思いますけど、は

い。

委員長：はい。そこも何か、記憶では少し暗いから明るいのにしたいというような形だったので、明るくて、希望の持てるような、何て言うんですかね、ポジティブな感じになれるようなところは一言お伝えしていただければと思います。その時には吾妻の事例とか、その辺が委員としても良い事例の一つというふうにお伝えいただければと思います。それ以外に何かコメントとして伝えておきたいところとかありますでしょうか。はい、お願いします。

委員：先ほど、学校の建設地にも一度視察に来られるっていうことを聞いて、言わなくてもいいかなと思ってるんですけど、やっぱり学校から見える景色とか、あと、このつくば市の歴史とか、地理とか、筑波山だけじゃなくて、川とか、ちょっとうまく思いつかないですけど、そういった何か、歌いながら情景が思い浮かべるようなものであって欲しいなと思って、何かちょっと未来とか、友達とか、愛とか、そういうちょっとありきたりなものも、必要な要素かもしれないんですけども、そこら辺はオリジナルなものを出していただきたいなと思ってます、なんてことを言うと、ちょっとプロの方に対して失礼かもしれないんですけど、すいません、以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。私も事務局からもらった事例の歌詞とかを中心に改めて見ると、昔に作ったものだと結構固有名詞とかが非常に多くてですね、最後に何とか学校とかっていうような括りで終わってるのが多くて、比較的新しいところを見ると、あんまりそういう固有名詞とかが結構少なくなって学森とかも、どちらかといえば抽象的な形でポジティブ思考の作詞と作曲になっているので、もしかしたら主流はそっちなのかもしれないんですけども、その辺はちょっとプロの方々の方に一任させてもらう形で、我々としては参考程度には先ほどの議事録を出して欲しいと

言いましたけども、その辺は、いろいろプロの方でご検討いただければというところで、お伝えできればと思っています。他ここはっていうところあればと思います。はい、お願いします。

委員：事務局に確認なんですが、校歌の進捗については、今のところ、どこまで進捗してるか見通しが持てない部分なんですが、新設校の開校に、校歌が間に合うかどうかについては、今のところ何かコメントございますか。

事務局：間に合わせるようにといたしますか。はい。進めさせていただいて、ちょっと開校の前に、例えば2月とかですか、お子さんに練習していただけるような、ところも踏まえて、鋭意進めさせていただきたいと思います。

委員：はい。ありがとうございます。学森の時は確か間に合わなかったんだと記憶していますが、できれば開校に間に合った方が、新しい学校、新しい校歌、すべてタイミングが揃った方がいいかと思いましたが、念のため確認でした。以上です。

委員長：はい、お願いします。ぜひ間に合うように、工程管理をして、お願いできればなと思っています。他、なければよろしいですか。ちょっと1点だけ教えてもらいたいのは、作詞をまずお願いして、そのあと作曲だと思うんですが、作詞をしたところだけで見せてもらえるのか、もう全部、作曲まで入った全部のところで聞かせてもらえるのかとか、その辺の、段取りのスケジュール感を皆様に周知いただければと思いますけど、いかがでしょうか。

事務局：現時点で、どの方についてというのは特にまだ決まっていなくて、それもケースバイケースで、作詞・作曲を1人の方がやっていただく可能性もありますし、逆に作詞・作曲を別々の方がやっていただくケースもありますので、現時点で一概には言えませんが、その途中で開示できるのかどうかとかも含めてですね、今後お願いさせていただく方とご相談させていただいてという形で、こういった形での回答となりまして申し訳ございません。

委員長：はい。ある程度形ができたところで、こちらにもフィードバックしていただけると、何て言うんですかね、安心するといえますか、ぜひそうしていただけるよう調整をお願いしたいと思います。他、何か改めてお願いしていくこととかありますでしょうか。よろしいですかね、時間も大分押してきたので、そろそろ終えたいと思いますので、事務局の方々、何か決めておくことなければお戻しいたします。

事務局：はい。事務局です。委員長ここまで進行いただきましてありがとうございました。制服・体操服のところにつきましては事務局の方でいただいている宿題も含めて、各メーカーさんの方にお聞きするとともにですね、校歌のところについて、学校さんの方で低学年のお子さんへ担任の先生を通じての聞き取りですか、ちょっとそういったところも踏まえて、こちらの方も進めさせていただきたいと思います。コンペのところは制服の部分についてメーカーさんに確認次第、皆さんの方にまた情報共有させていただきますので、改めてご連絡をさせていただきたいと思います。その他、皆さんの方から、ご意見やご質問等ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。はい。すいません。本日、長時間にわたりまして開校準備委員会ご出席いただきましてありがとうございました。これをもちまして第9回（仮称）研究学園小・中学校開校準備委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

4 閉会